

(8) 浮魚類資源調査

予算

水産資源調査・評価推進委託事業（水産庁委託）

概要

浮魚類の長期的な資源および漁業の動向把握を目的として、標本船・標本漁協の漁獲データ、漁獲物の体長組成、および漁船の操業海域・統数について、継続的に調査を実施している。2024年は、漁獲量ではシラス（標本漁協）が前年比 45%、カタクチイワシ（巾着網標本船）が前年比 175%、マイワシ（同）が前年比 6%、マアジ（同）が前年比 173%、マサバ（同）は前年比 12%の漁獲であった。また、本事業で得られた情報を用いて 4 回（春シラス、イワシ類、秋シラス（前半、後半））漁況予報を行い、大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ（水産分野）（<http://www.knsk-osaka.jp/suisan/gijutsu/shirasu/index.html>）で公表した。

調査方法

1. 調査定点
 - 1) 漁獲調査
巾着網標本船、および南部標本漁協における漁獲データをとりまとめた。
 - 2) 卵稚仔調査
大阪湾全域 20 定点（浅海定線調査に準じる）において、丸特 B 型ネット（口径 45 cm、目合 0.335 mm）による底層から表層までの鉛直曳を行った。
2. 調査期間と実施日
2024 年 1 月～2024 年 12 月
3. 調査項目
巾着網魚種別漁獲量、シラス漁獲量、シラスの混獲割合、カタクチイワシ卵稚仔採集数等
4. 調査船
漁業調査船「おおさか」（19 トン、680 kw×2 基）

調査結果

表 1～4 のとおり。予報文については資料 1～4 参照。

担当者

瀬田智文、大美博昭

表 1 浮魚類資源調査 巾着網標本船における魚種別漁獲量（1ヶ統あたり）

単位：トン

魚種\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カタクチイワシ	255.4	268.3	26.1	2.5	356.6	302.7	58.7	219.2	470.9	19.6	218.3	281.0
マイワシ	0	1.0	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マアジ	0.3	0.5	0.2	0.1	0	0.1	0	0	0.1	0	0	0
マサバ	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0

表 2 浮魚類資源調査 南部標本漁協におけるシラス漁獲量結果

単位：トン

魚種\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シラス	0.8	0	0	0	29.3	41.1	30.6	37.9	30.8	20.6	13.4	6.8

表 3 浮魚類資源調査 シラス混獲割合と平均全長結果

魚種\採集日		5月23日	5月30日	6月6日	6月10日	6月17日	6月24日	7月4日	7月18日
混獲尾数	マシラス	0	0	0	0	0	0	0	0
	カタクチシラス	214	200	228	245	274	324	216	225
	ウルメシラス	2	0	0	0	0	1	0	0
混獲割合 (%)	マシラス	-	-	-	-	-	-	-	-
	カタクチシラス	99.1	100.0	100.0	100.0	100.0	99.7	100.0	100.0
	ウルメシラス	0.9	-	-	-	-	0.3	-	-
平均全長 (mm)	マシラス	-	-	-	-	-	-	-	-
	カタクチシラス	29.6	21.6	23.9	24.4	21.6	19.8	22.9	18.4
	ウルメシラス	25.1	-	-	-	-	24.9	-	-

上段：混獲尾数 中段：混獲割合(%) 下段：平均全長(mm)

表 4 浮魚類資源調査 カタクチイワシ卵定点別採集数結果

丸特ネット1曳網あたり

定点\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	0	0	0	0	349	136	1	7	0	0	0	0
2	0	0	0	0	86	992	89	26	0	0	1	0
3	0	0	0	0	162	175	30	61	0	0	0	0
4	0	0	0	0	28	53	120	71	3	1	0	0
5	0	0	0	2	72	74	11	69	0	0	0	0
6	0	0	0	3	162	1	2	3	0	0	0	0
7	0	0	0	4	87	29	6	0	0	0	0	0
8	0	0	0	10	496	10	2	11	0	0	0	0
9	0	0	0	0	358	552	19	178	0	0	24	0
10	0	0	0	0	496	702	117	35	2	2	1	0
11	0	0	0	0	656	384	6	24	3	17	6	2
12	0	0	0	6	249	2369	553	111	17	17	66	0
13	0	0	0	0	134	23	2	16	3	17	15	0
14	0	0	0	10	1767	2176	132	49	104	21	52	0
15	0	0	0	10	2136	1037	72	56	104	186	11	3
16	0	0	0	7	2744	411	19	28	92	318	8	0
17	0	0	0	0	13	25	5	15	2	90	1	1
18	0	0	0	0	210	187	15	20	4	10	11	1
19	0	0	0	0	217	34	5	14	19	5	5	0
20	0	0	0	2	928	131	18	0	0	0	0	0



2024 年春季シラス (5～6 月前半) 漁況予報

2024 年 (令和 6 年) 5 月 2 日

水産技術センター

今後の見通しのポイント

春シラス漁：低調であった前年並み

1. 海況の概況

潮岬沖の黒潮は、2017 年の 8 月以降、離岸傾向が継続し、本年に入っても 4 月中旬まで離岸する状況が続いています (下表)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、今年 5～6 月における潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されており、春季シラス漁期である 5～6 月前半は離岸して推移すると考えられます。

表 潮岬沖における黒潮の離岸距離 単位：海里 (1 海里=1,852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2021年	88	109	105	106	119	83	101	131	144	155	166	185
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	133								

※本年 4 月は中旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

2. カタクチイワシ卵の出現量および漁況の概要

本年 1～3 月の日向灘～紀伊水道外域における調査では、カタクチイワシ産卵量 (暫定値) は前年の 134%、平年 (2013～2022 年の平均値) の 57% と、前年をやや上回りましたが、平年を下回る水準でした。大阪湾内では、4 月の卵密度が過去 5 年平均、平年 (1985 年～2019 年の平均値) をいずれも下回りました。

紀伊水道周辺における本年春季漁は、和歌山県で漁が行われていますが、4 月中旬までは低調に推移している模様です。

3. 漁況の予測

大阪湾で春季に漁獲の対象となるシラスは、漁期前半は外海域 (日向灘～紀伊水道) で発生し補給されるイワシシラス (カタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシの 3 種) が主体となります。このため、大阪湾での春季シラス漁の好、不漁は外海域での発生量が多いか少ないか、さらにそれらがシラスとなって大阪湾まで補給されるかどうかにより大きく影響されます。また、漁期後半では大阪湾内で生まれたカタクチシラス (内海発生群) の加入状況が漁模様に大きく影響します。

前年 (2023 年) は、黒潮が潮岬沖で大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給は期待できない状況で、漁獲は 5 月下旬まで低調に推移しました。しかし、5 月末以降に大阪湾内発生と推測される群の加入がみられ、漁獲は上向きましたが、6 月中旬まで前年同時期を下回る漁獲が続きました。なお、シラスの種組成は、5 月上旬にはカタクチシラスが 9 割、ウルメシラスが 1 割、マシラスの割合はわずかでした。6 月にはカタクチシラスの

資料 1 令和 6 年春季シラス漁況予報 続き

みとなりました。

本年は、潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続するという予測、外海でのカタクチイワシの発生が近年同様、低水準と考えられることや、紀伊水道周辺域における漁模様から、大阪湾内へのカタクチシラスの来遊量は、低調であった前年並みの水準と推測されます。

一方、内海発生群については、通常、6 月から本格的な加入が始まりますが、前年は 5 月末から加入がみられました。前年の加入時期が早まった要因として、4 月から 5 月にかけて水温が平年より高めに推移したことが考えられますが、本年の水温は現在のところ、平年並で推移しています。また、本年 4 月の卵密度が平年を下回ったことから、前年に比べ産卵が活発化するのが遅れた場合、今期は前年より遅い 6 月以降に内海発生群が加入する可能性があります。この群れの加入については現時点では不確実な状況です。

これらのことから、本年の春季シラス漁(5～6 月前半)は、低調であった前年並みの漁となるでしょう。

なお、今後の大阪湾内発生群の状況については、5 月中旬に大阪湾におけるカタクチイワシの産卵情報を、また、夏季シラス漁、マイワシ、カタクチイワシ漁については例年どおり 6 月上旬に漁況予報を、それぞれ発表する予定ですので、参考にしてください。

今後の見通しのポイント

夏シラス：前年並。
 カタクチイワシ：前年並。
 マイワシ：不漁であった前年並。

1. 海況の概況

○水温（大阪湾、10m層）

本年の大阪湾の水温は、4月以降平年並みとなっています（図1）。今後の大阪湾の水温は、気象予報等から判断すると平年並み～高めで推移すると考えられます。

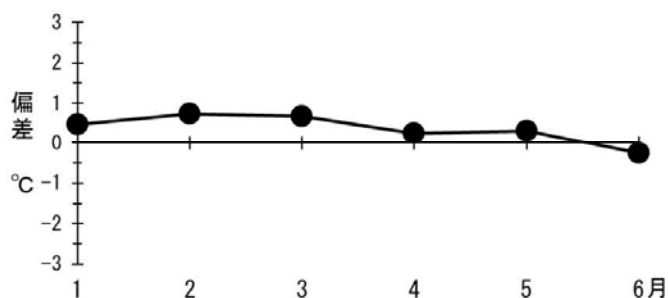


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、20 定点平均値）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、離岸傾向が継続し、本年に入っても6月上旬まで大きく離岸する状況が続いています（表1）。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本年の夏シラス漁期（6月後半～8月）についても潮岬沖の黒潮の離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2021年	88	109	105	106	119	83	101	131	144	155	166	185
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	108						

※本年6月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

2. イワシ類の漁況、卵の出現状況と予報

(1)夏シラス（6月後半～8月）

・春シラス（6月前半まで）漁況の概況

本年の大阪府における春シラス漁は、5月10日から本格的に出漁が開始されました。黒潮が大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況にあり、5月下旬まで漁獲は低調に推移しました。5月末以降、湾内発生とみられる群の加入がみられましたが、前年同時期を下回る漁獲となっています。なお、シラスの種組成は、5月下旬時点でカタクチシラスが95%以上を占め、5月末にはカタクチシラスのみとなりました。

・カタクチイワシ卵の出現

本年のカタクチイワシ卵の採集数は、5月はプランクトンネット1曳網当たり568粒、6月は同476粒でした。これらを前年、平年と比較すると、5月は前年の896%、平年の276%、6月は同じく452%、201%となり、5月、6月ともに前年、平年を大きく上回りました。卵は、湾北東～中央部に多く出現しました（表2、図2）。なお、カタクチイワシ稚仔の採集数は、5月は前年の534%、6月は69%と、5月については卵同様、前年を大きく上回りましたが、6月は前年を下回りました。

表2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平 年	0	0	0	2	40	77	34	28	21	5	2	0.4
過去5年	0	0	0	61	275	250	95	122	52	37	24	2
前 年	0	0	0	32	63	105	61	62	54	47	16	0
本 年	0	0	0	3	568	476						

平年値：1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数（粒）

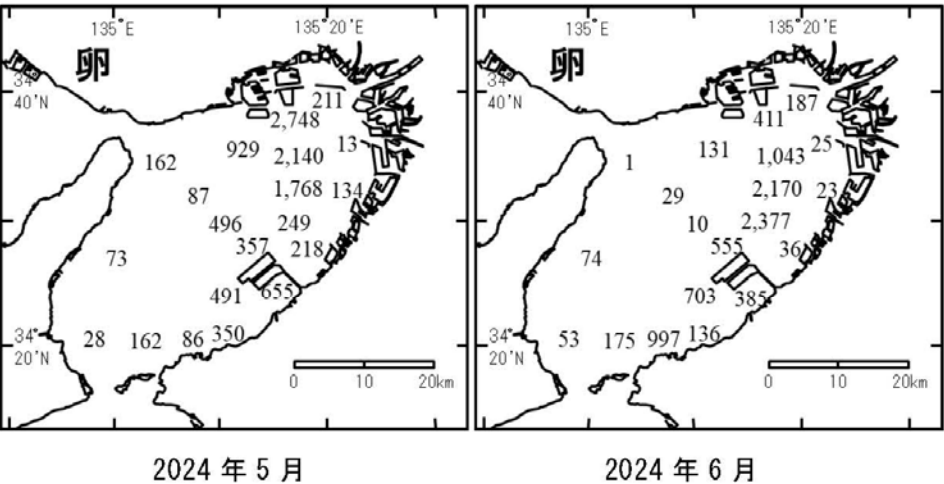


図2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1曳網あたり）

・漁況予報

大阪湾における夏シラス漁は、外海発生群（紀伊水道を通過して大阪湾に來遊する）が春シラスに引き続き漁獲されるのに加え、大阪湾内発生群が 6 月以降シラスとなって漁獲物に加入します。

黒潮は本予報期間中も離岸傾向が続くことが予測されており、今後の外海発生群の漁獲はあまり期待できません。一方、現時点における大阪湾内での発生群は、5 月の卵・稚仔および 6 月の卵の出現状況からは前年を上回る水準と推測されます。ただし、6 月の稚仔については前年を下回り、6 月初旬のシラスの漁獲が低調であったことから、生き残りの状況があまり良くない可能性もあります。そのため、本年の漁期後半の漁獲は現時点では不確実な状況です。なお、前年の夏シラス漁は、8 月中旬以降から漁が上向いたものの、平年を下回る水準でした。

以上のことから、**本年の夏シラス漁は、前年並となるでしょう。**

(2) カタクチイワシ

大阪湾におけるカタクチイワシ漁では、漁期当初は前年発生 の 1 歳魚が、その後、春季にシラスとして加入した 0 歳魚が漁獲の主体になります。

前年発生 の 1 歳魚（体長 10cm 前後）については、本年春季における漁獲は前年を上回りました。しかし、本年の春シラス漁は、前年同時期と同様低調であったことから、0 歳魚の湾内への加入については少ないと予測されます。これらのことから、**本年のカタクチイワシ漁は、前年並と考えられます。**

(3) マイワシ

マイワシの全国漁獲量は昭和 63 年に 450 万トンもありましたが、平成 17 年には 3 万トンまで減少しました。その後は 3～8 万トン程度の低水準にありましたが、近年は 70 万トン近い漁獲がみられています。

大阪府においては昭和 62 年からマイワシ漁獲量に減少傾向がみられ、平成 10 年には最も漁獲量の多かった昭和 57 年（8.2 万トン）の 1000 分の 1 にまで減少しました。平成 18 年以降回復傾向もみられ、平成 27 年以降では 1000～2000 トンのまとまった漁が続いていました。しかし、令和 4 年以降はそれまでの年に比べマイワシの漁獲は大きく減少しました。

国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本年春季（2、3 月）の外海域におけるマイワシの産卵量は前年を下回りました。また、大阪湾内では春シラス漁の前半の状況から、外海からのシラスの加入が少なかったことに加え、前年と同様にマシラスの混獲も少なかったことから、大阪湾内への流入は前年と同様な水準であったことが推測されます。

これらのことから、**本年の大阪湾におけるマイワシ漁は不漁であった前年並みと考えられます。**

今後大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に、また、秋シラス漁の漁況予報については昨年同様 9 月、11 月に再度発表する予定ですので、参考にしてください。



令和6年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター
令和6年9月13日

今後の見通しのポイント

秋シラス（9～10月）：前年を下回る

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

本年の大阪湾の水温は、8月を除き、平年並み～やや高めで推移しています（図1）。気象庁による9～11月の西日本における天候見通しでは、平均気温より高い確率が60%、平年並みが30%と予想されていることから、今後の水温は平年並み～高めで推移するものと推測されます。

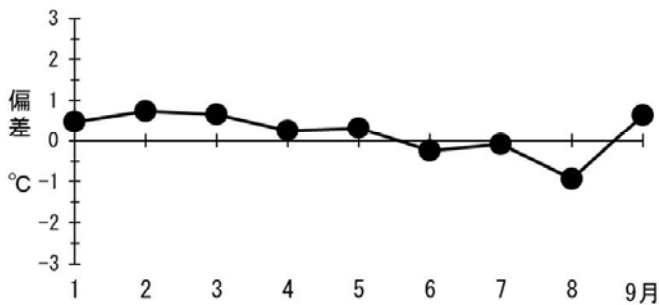


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化しました。本年も離岸傾向は続いています。9月に入り離岸距離が小さくなっていることから、黒潮が一時的に接岸した可能性があります（表1）。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、秋シラス漁期も、潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2021年	88	109	105	106	119	83	101	131	144	155	166	185
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	40			

※本年9月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

(2) これまでのカタクチシラスの漁況の推移

大阪府におけるシラス漁は、5月10日から本格的に出漁が開始され、前年同様、5月下旬まで漁獲は低調に推移しました。5月末以降、湾内発生とみられる群の加入がみられましたが、6月末まで前年同時期を下回る漁獲が続きました。シラスの種組成は、5月下旬時点でカタクチシラスが95%以上を占め、5月末以降はほぼカタクチシラスのみとなりました。その後、7月中旬～8月下旬にまとまった漁獲があり、この時期については前年同時期を上回る漁獲となりましたが、8月末以降は漁獲量が減少し、9月に入っても低調な漁獲が続いています。

(3) 8月、9月におけるカタクチイワシ卵、稚仔の出現状況

本年のカタクチイワシ卵は、8月は大阪湾北西部を除く湾全域で、9月は主に大阪湾北東部海域で採集され、8月はプランクトンネット1曳網当たり40粒、9月は18粒でした。これを平年、前年と比較しますと、8月は平年の143%、前年の65%と平年を上回ったものの、前年を下回り、9月は平年の86%、前年の33%で、平年および前年を下回る採集数でした。稚仔の採集数は、8月、9月ともに平年、前年を大きく下回りました。（8月は平年の10%、前年の4%、9月は平年の8%、前年の3%）。

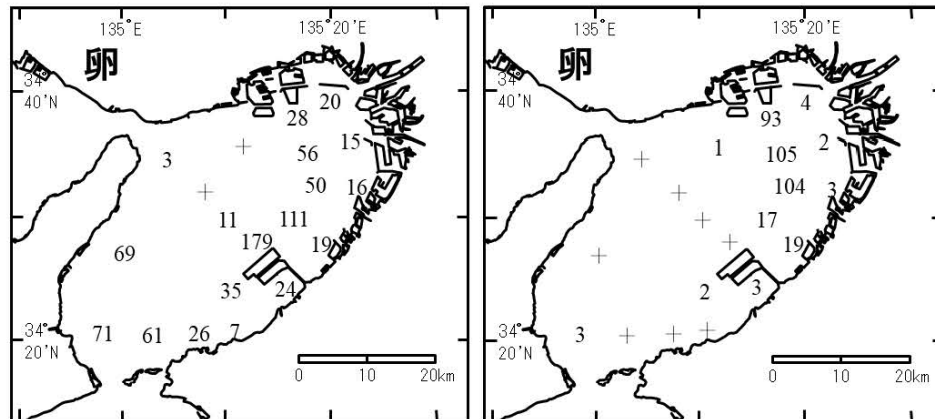
以上のことから、両月の採集数を総合すると、本年8～9月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生状況は、全体として前年を下回る水準であると推定されます（表2、表3、図2）。

表2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平 年	0	0	0	2	40	77	34	28	21	5	2	0.4
過去5年	0	0	0	61	275	250	95	122	52	37	24	2
前 年	0	0	0	32	63	105	61	62	54	47	16	0
本 年	0	0	0	3	568	476	61	40	18			
平年値	:1985-2019(35年)の平均値						プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)					

表3 カタクチイワシ稚仔の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平 年	0	0	0	0.1	4	8	6	10	4	1	0.6	0.2
過去5年	0	0	0	0.7	9	47	15	16	6	5	8	1
前 年	0	0	0	0.5	6	26	10	28	12	10	12	0.4
本 年	0	0	0	0	31	18	2	1	0.3			
平年値	:1985-2019(35年)の平均値						プランクトンネット1曳網当たりの採集数(尾)					



2024 年 8 月
2024 年 9 月
図2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1曳網あたり）
※ 図中+は出現なし

2. 漁況予測

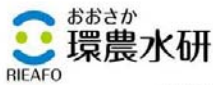
この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約3週間、主漁獲対象になるまで1ヶ月弱かかります。そのため8、9月の卵稚仔の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生量は、卵および稚仔の採集状況から全体として前年を下回る水準であると推定されます。さらに、8月末～9月上旬の漁模様や8、9月の稚仔の採集状況などから生き残り条件は昨年に比べて悪い可能性があります。これらのことから、今後のシラス漁への加入水準は前年を下回ると考えられます。また、他海域からのシラスの補給については、潮岬沖での黒潮の離岸傾向が継続することが予測されていることから、あまり望めない状況にあります。

以上のことから、**本年秋季（9～10月）のシラス漁は、好調だった前年を下回る漁となるでしょう。**

近年は、晩秋季の11月以降もシラスが漁獲されるため、平成21年より秋季シラスを前半（9～10月）と後半（11～12月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬ごろに発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から10月下旬頃にあらためて発表する予定にしておりますので、参考にしてください。



2024 年秋季（11～12 月）シラス漁況予報

水産技術センター
2024 年（令和 6 年）11 月 15 日

今後の見通しのポイント

秋シラス（11～12 月）：前年を下回る。

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m 層）

大阪湾の 10m 層水温は、9 月以降は高めで推移しています（図 1）。気象庁による 11～1 月の近畿地方における天候見通しでは、気温は平年より高い確率が 40%、平年並みが 40%と予想されていることから、今後の水温は平年並みから高めと推測されます。

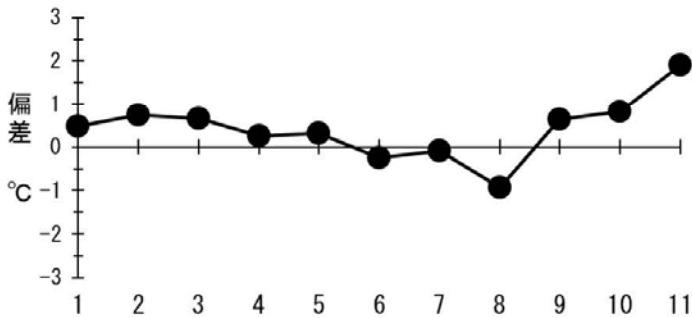


図 1 大阪湾の水温偏差（10m 層、大阪湾 20 定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017 年の 8 月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化しました。本年に入っても現在まで大きく離岸する状況が続いています（表 1）。

表 1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里 (1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2021年	88	109	105	106	119	83	101	131	144	155	166	185
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	133	109	88	

※本年11月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

(2) これまでの漁況の推移

本年の大阪湾における夏～秋シラス（前半）漁は、7月中旬～8月下旬にまとまった漁獲があり、この時期については前年同時期を上回る漁獲となりましたが、8月末以降は漁獲量が減少し、11月上旬まで低調な漁獲が継続しています。

(3) 10月、11月におけるカタクチイワシ卵、稚仔の出現状況

本年のカタクチイワシ卵は、10月、11月とも主に大阪湾東部海域で採集され、10月はプランクトンネット1曳網当たり35粒、11月は10粒でした。これを平年、前年と比較しますと、10月は平年の700%、前年の74%、11月は平年の500%、前年の63%で、両月とも平年は上回ったものの前年を下回りました。また、稚仔の採集数は、10月、11月とも前年を大きく下回りました（10月は平年の71%、前年の10%、11月は平年の150%、前年の8%）。

以上のことから、本年10～11月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生状況は、全体として前年を下回る水準と推定されます（表2、表3、図3）。

表2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平 年	0	0	0	2	40	77	34	28	21	5	2	0.4
過去5年	0	0	0	61	275	250	95	122	52	37	24	2
前 年	0	0	0	32	63	105	61	62	54	47	16	0
本 年	0	0	0	3	568	476	61	40	18	35	10	
平年値	:1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)											

表3 カタクチイワシ稚仔の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平 年	0	0	0	0.1	4	8	6	10	4	1.4	0.6	0.2
過去5年	0	0	0	0.7	9	47	15	16	6	5	8	1.2
前 年	0	0	0	0.5	6	26	10	28	12	10	12	0.4
本 年	0	0	0	0	31	18	2	1.3	0.3	1.0	0.9	
平年値	:1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(尾)											

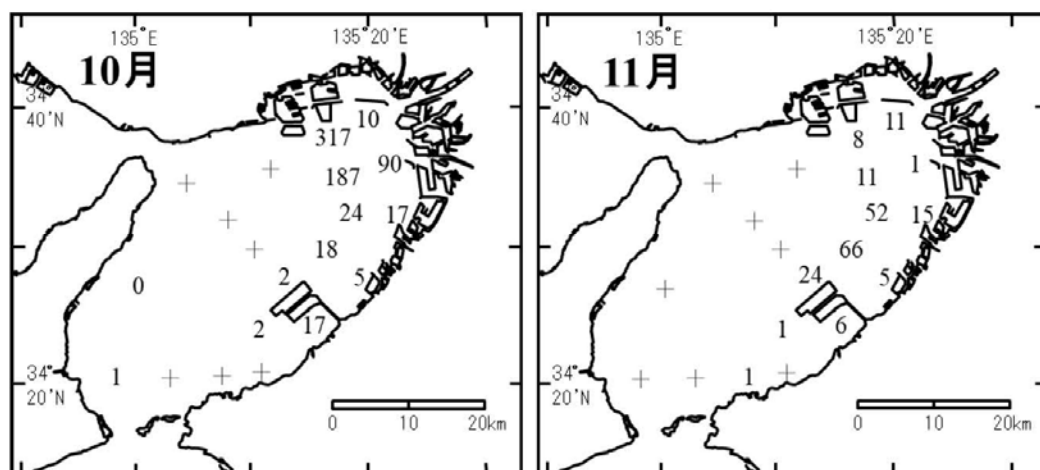


図3 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1 曳網あたり）
+は採集されなかったことを示す

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてから主漁獲対象になるまで1ヶ月と少しかかります。そのため9月後半から11月の卵の量と、この間の生き残りが本予報期間のシラスの漁獲量に大きく影響します。

本年10月、11月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生量は、卵および稚仔の採集状況から全体として前年を下回る水準であると推定されます。さらに、10～11月上旬の漁模様や10月、11月の稚仔の採集状況などから、生き残り条件は昨年に比べて悪い可能性があります。これらのことから、今後のシラス漁への加入水準は前年を下回ると考えられます。また、他海域からのシラスの補給については、潮岬沖での黒潮の離岸傾向が継続することが予測されていることから、あまり望めない状況にあります。

以上のことから、本年秋季（11～12月）のシラス漁は好漁だった前年を下回る漁況となるでしょう。